

《2018 ピレリスーパー耐久シリーズ 第5戦 もてぎ5Hours Race》

#38 muta Racing ADVICS RC350 TWS

ST3 参戦 8台

予選結果 2位

決勝結果 2位

A:Dr 堀田 誠

B:Dr 坂口 良平

C:Dr —



“2018年シリーズチャンピオンを賭けて戦う上で重要な1戦になる”
チーム全員がその認識の下で当レースに全力で挑む。
その1つの要素として車両をIS350からRC350にスイッチする事でした。
車両は2月にシェイクダウンを済ませ各部分の開発に使用しており臨戦態勢でした。
事前に岡山国際サーキットで改めて比較評価し、車両変更の決定を下しました。

そして木曜日昼からの走行で細かな調整をしていき・・・という流れが
悪天候が金曜まで残り、決勝はドライ予報なのにも関わらず
ほぼぶっつけ本番での予選になりました。

A予選での堀田選手が5番手のタイム。
B予選では坂口選手が0.9秒引き離す1番時計
合算では2番手となりまずまずでした。

決勝は予選1番手の#62 DENSO Le Beausset RC350と攻防戦が数時間に渡って繰り広げられた。それは数回のピットインの後も続き、最後のピットインを済ませた後は事実上トップでコースに。坂口選手のフルプッシュと堀田選手の走りでしたが、残り数ラップの所で#62号車に逆転を許してしまい、そのままチェッカーとなった。非常に悔しい2位となりましたが、次回は地元岡山。またチャンピオンの可能性は残されておりチャンピオンになれなくても勝って今年を締めくくれるよう全力で戦う準備をしていきたいと思ひます。



《2018 ピレリスーパー耐久シリーズ第4戦 もてぎ5Hours Race》

#39 ADVICS TRACY RC350 TWS

ST3 参戦 8台

予選結果 7位

決勝結果 8位

A:Dr 手塚 祐弥

B:Dr 下垣 和也

C:Dr 前嶋 秀司

D:Dr 近藤 説秀



全戦のオートポリスで優勝したものの、思いの他セットがモチギと合わないという所から木曜の走行が始まりました。

とは言ってもドライで走れたの最初の数分だけでした。

色々と試すもウェット路面ではドライ予報の決勝に向けてという意味であまり正確な評価ができずプラクティスを終える。

全車同じ条件ではあるがもてぎは当チームにとってアウェイであり
厳しい判断を強いられる。

予選に向けて再度セットが戻されアタックを試みる。

A予選の手塚選手は4番手。トップタイムからは-0.4秒と近年の3クラスらしい
接戦でした。

B予選では下垣選手がタイムの更新に失敗し8位となり合算では7位スタート
となった。しかし決勝は5時間。オーバーテイクが難しいモチギでもたった数メートルの
スタートのポジションはちょっとした事ですぐにひっくり返るので誰も諦めず
決勝に合わせ入念に打ち合わせをする。快晴の秋空とはいえ思ったより暑く路面温
度も高い。オートポリス戦同様タイヤ交換本数を減らし
後半の気温が下がった頃を勝負所として前半は温存に努める作戦をチョイスする。
スタート後は少しずつ離されもタイヤを労わりラップする。トップグループの作戦も様々
ではあるが大きく遅れを取る事なくこれから!という後半にさしかかろうという頃に
ドライバーからトラブルを伝える無線が入る。今回は4時間経過までであれば救済
措置があり車検場まで回収してくれました。回収・修理に時間を要したが、完走
させる事が精一杯で、この悔しさは岡山で晴らそうと思います。



